
医療と介護の連携推進業務委託 報告書

平成 31 年 3 月
日野市健康福祉部在宅療養支援課

目 次

1	業務の概要	1
1-1	業務の目的	1
1-2	業務の進め方	1
2	日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催	3
2-1	会議の概要	3
2-2	各回の内容	4
3	多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援	9
3-1	勉強会・研修会の開催状況	9
3-2	各会の内容	10
4	地域住民への普及啓発の実施支援	15
4-1	普及啓発の実施状況	15
4-2	イベントの開催結果	16
5	国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供	21
5-1	情報提供の実施状況	21
5-2	情報提供の具体的な内容	22
6	次年度の取組方針の検討	25
6-1	検討部会の開催	25
6-2	多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催	25
6-3	地域住民への普及啓発の実施	26
6-4	国、東京都・他自治体の取組等の調査	26

1 業務の概要

1 - 1 業務の目的

本業務は、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、「推進協議会」）、日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（以下、「検討部会」）及びその他在宅高齢者の療養環境整備支援に係る業務について、円滑かつ効率的、効果的に運営することを目的とする。

「推進協議会」及び「検討部会」は、高齢者が安心して在宅療養を受けられるよう、介護、福祉、医療、保健の各分野のサービス提供主体間における円滑かつ有機的な連携体制の構築を推進することを目的に設置されたものであり、この内容は第3期日野市高齢者福祉総合計画（平成30年3月）の中で重点課題及び施策の柱の1つとしてあげられている。

▼第3期日野市高齢者福祉総合計画（平成30年度～平成32年度）における位置づけ

<目指すべき姿>

いつまでも安心して暮らせるまち 日野

<基本理念>

- 高齢者の尊厳の保持と自立した生活を支援します
- 地域包括ケアシステムを深化・推進します
- 持続可能な支え合いの仕組みづくりを推進します

<施策の内容>

柱2 医療と介護の連携を推進し、
有機的なネットワークを構築します

- ・在宅療養・介護関係者の研修【2105】
- ・在宅医療の普及啓発【2106】
- ・在宅高齢者療養推進協議会の開催【2201】
- ・医療と介護の連携支援ツールの普及【2202】

※関連の深い施策を抜粋／括弧内は施策番号

<高齢者福祉に関する重点課題>

- 1 介護保険事業の充実
- 2 医療と介護の連携
- 3 認知症施策の充実
- 4 地域包括支援センターの役割強化
と地域での支え合いの充実
- 5 健康の維持と地域での生活の継続

1 - 2 業務の進め方

「検討部会」を作戦本部として、この運営支援を中心に、以下の各項目について企画・運営を進めた。

- 多職種による連携推進勉強会・研修会の運営支援
- 市民啓発イベントの開催支援
- 多職種連携ガイド掲載ホームページへの助言
- 国、東京都・他自治体の取組等の情報提供

(このページは白紙です)

2 日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催

2-1 会議の概要

「検討部会」は、在宅療養環境の向上及び医療と介護の連携体制の構築等に関する取組について具体的な検討を進めるために、「推進協議会」のもとに設置された会議体である。平成25年度より、医療と介護の連携に特に関わりの大きい「日野市医師会」「日野市歯科医会」「日野市薬剤師会」「日野市訪問看護ステーション協議会」「日野市立病院」「日野市在宅介護事業者協議会」「ひのケアマネ協議会」「地域包括支援センター」の8団体の代表者と行政（日野市在宅療養支援課及び高齢福祉課）を構成員に定期的に活動している。

平成30年度は、前年度に引き続いて連携推進勉強会（第3章）の新たなコンテンツの開発と、地域住民への普及啓発の2つを主要テーマに検討を進めることとした。

会議の開催日程と主要な検討テーマは以下の通り。

▼「検討部会」等の開催日程と主要な検討テーマ

回数	日程	主要な検討テーマ
第1回	平成30年5月15日	○平成30年度のスケジュールと議題案について ー勉強会の開催方針 ー市民啓発イベントの開催方針 ○その他（第1回勉強会の開催等）
第2回	平成30年8月27日	○第1段階勉強会の改善について ○第2段階勉強会の開催方針について （今後の検討の枠組みに関する検討を含む） ○市民啓発イベントの実施内容について （開催日程、ステージ・ブースの実施内容等）
第3回	平成30年11月13日	○市民啓発イベントの実施内容について （開催日程、ステージ・ブースの実施内容等） ○第2段階勉強会（第4回勉強会）の開催内容について ○その他（勉強会等の参加団体について）
第4回	平成31年1月28日	○市民啓発イベントの実施内容について（最終確認） ○第2段階勉強会（第4回勉強会）の開催内容について ○次年度の取組方針について

2 - 2 各回の内容

2 - 2 - 1 第1回検討部会

第1回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成30年5月15日（火） 18：30～20：30
開催場所	：在宅療養支援課内打ち合わせスペース
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：長島課長、山本主査、後藤主事（以上、在宅療養支援課）、宮澤課長、松田課長補佐（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 平成30年度の体制について 2. 基本指針策定にかかるアンケート調査の結果概要について 3. 各職種の動きについて 【議 題】 1. 平成30年度のスケジュールと議題案について （1）勉強会の開催方針 （2）市民啓発イベントの開催方針 2. その他 （1）第1回勉強会の開催 （2）ケア倶楽部の改修
配付資料	【当日配布】 平成29年度第4回検討部会議事録、平成30年度第1回検討部会 資料、H29年度第4回介護と医療の連携推進勉強会 開催報告、同ミニアンケートの集計結果、平成29年度事業報告書、在宅医療・介護連携推進事業の手引き ver.2、日野市在宅療養体制構築のための基本方針策定にかかるアンケート調査報告書、パンフレット「食事の形態や食べ方に配慮が必要な方へ」
結 論	1. 平成30年度の検討部会は、勉強会と市民啓発イベントの開催を主要な作業項目に、2025年に向けた連携の目標の再整理をあわせて行うこととする。 2. 今年度の勉強会は以下の通り開催することとする。 －第1段階勉強会は、2回のうち1回は連携の問題点に焦点をあててこれを把握する／深掘りするような新しいパターンの実施を検討する。 －第2段階勉強会は、毎年新しい症例を増やしていくことを目標に、褥瘡と入退院等またはそのいずれかを症例として取り上げる勉強会を開催する。 －第2段階勉強会の参加要件及び聴講の取り扱いは従前の通りとする。 －第1回（第1段階）は6月末以降、第2回（第2段階）は9月に開催。 3. 勉強会については、その他に証書の発行など関係者が勉強会に参加したくなるような動機づくりを検討することとする。 4. 市民啓発イベントは、前年度に実施した第1回の内容を下敷きに以下のようなブラッシュアップを図ることとする。 －講演については、内容のブラッシュアップと質疑応答時間の延長等を行う。 －その他のブースについては、パネルや配付資料の改善、パネルの配置順の変更（状態変化の流れにあわせて並び替え）、通路等の余裕の確保などの対応により、より見やすく分かりやすいものに改善を図る。 －PRについては、より多くの人に情報を届けられるような方法を検討する。

2 - 2 - 2 第2回検討部会

第2回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成30年8月27日（月） 18：30～20：30
開催場所	：在宅療養支援課内打ち合わせスペース
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：長島課長、山本主査、後藤主事（以上、在宅療養支援課）、宮澤課長、松田課長補佐（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 各職種の動きについて 2. 第1回勉強会の開催結果について 【議 題】 1. 勉強会の実施内容の確認 2. 第4回勉強会（第2段階）の開催方針の検討（テーマの絞り込み） 3. 市民啓発イベントの開催方針
配付資料	【当日配布】 平成30年度第1回検討部会議事録、平成30年度第2回検討部会 資料、H30年度第1回医療と介護の連携推進勉強会 開催報告、同ミニアンケートの集計結果、今後の取組の枠組みイメージ、市内の100名以上のホール等を持つ施設、講演会参考資料 書籍抜粋、基本方針 関連資料 一式
結 論	- 第3回勉強会は、第1回勉強会の内容を基本に以下の改善を加えて開催することとする。 －付箋の取り扱いのルールを変更する。 －記録係を新たに設定する。 - 勉強会②は、症例の変更を含めて参加者がより発言しやすいよう改善を図った上で開催することとする。 - 勉強会④は、以下の通り開催することとする。 －認知症をテーマとする（どの段階のどんな症例を採用するかは継続検討）。 －診療所とは別に多摩平の森の病院、七生病院、市立病院に参加を呼びかける。 - 市民啓発イベントは、年末年始の12月、1月を避けることを基本に、会場となるイオンホールの空き状況を確認して日程を決定することとする。 - ステージの実施内容は以下の通りとする。 －講演は、望月委員にお願いする。 －講演内容については、在宅療養の基本的な説明（訪問診療の制度紹介や介護保険制度の概要）の追加、必要な費用の見直し等のブラッシュアップを行う。 －パネルディスカッションは、いくつかの典型的な症例を題材に各職種からコメントをもらう形で進行する。 - ブースでは、各職種の主要な業務を伝えることを第一の目的とし、各職種には以下の準備をお願いすることとする。 －市民との関わりはどの段階がメインかを自己申告する。 －各ブースに設置するパネルについて昨年度の内容を見直し・調整する。 - その他の団体の参加については、声かけの有無も含めて事務局に一任する。

2 - 2 - 3 第3回検討部会

第3回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成30年11月13日（火） 18：30～20：30
開催場所	：在宅療養支援課内打ち合わせスペース
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：長島課長、平岩主査、後藤主事（以上、在宅療養支援課）、宮澤課長、松田課長補佐（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 各職種の動きについて 2. 第3回勉強会の開催概要について 【議 題】 1. 市民啓発イベントの開催方針の検討 2. 第4回勉強会の開催方針の検討 3. その他
配付資料	【当日配布】 平成30年度第2回検討部会議事録、平成30年度第3回検討部会 資料、第2回勉強会 開催報告、市民啓発イベント参考資料「豊田市在宅療養ガイドブック」、第4回勉強会関連資料イメージ「認知症カード」、勉強会及び検討部会の参加職種の再検討に関する調査票
結 論	- 第3回勉強会は、資料の通り開催する。 - 市民啓発イベントは以下の通り開催準備を進めることとする。 －ステージでは、一般の市民の方に在宅療養のイメージを伝えるため、講演等の中でがんと非がんを中心に複数のケースを紹介する。 －ケースの紹介等にあたっては、芝居仕立ては実施せず、Q＆Aの時間やスタンプラリーの導入、各職種のキャッチコピーの作成などにより市民に伝わりやすい内容とすることを目指す。 －ブースでは相談コーナーと前回同様パネルの設置を行う。 －デモや展示を中心に企業にも参加要請を行う。 －プログラムを前後半に分け、ステージ側にも展示ブースを設ける等の工夫により昨年度よりも余裕を持った会場構成とする。 －開催時間は昨年度と同様の13時～16時とする。 - 第4回勉強会は、比較的元気な状態を取りあげて、実際の接し方等の実践的な内容を学ぶことを基本に、在宅の状況に詳しい講師と開催内容を検討することとする。 - 勉強会等の参加者の拡大については、親会の構成員となっていること等を基本的な条件とし、個別の職種については以下の通り対応することとする。 －親会に参加をしている老健等は勉強会への参加を認める。 －PT、管理栄養士は就業する事業所が所属する協議会枠での参加を要請する。 －柔道整復師は、個別に介護保険事業を実施している場合のみ、該当する協議会の構成員の立場での参加を認める。

2 - 2 - 4 第4回検討部会

第4回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成31年1月28日（月） 18：30～20：30
開催場所	：在宅療養支援課内打ち合わせスペース
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：長島課長、平岩主査、後藤主事（以上、在宅療養支援課）、宮澤課長（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 各職種の動きについて 2. 部会及び勉強会の参加団体について 3. 第3回勉強会の開催結果について 【議 題】 1. 市民啓発イベントの開催方針の検討 2. 第4回勉強会の開催方針の検討 3. 次年度の取組方針の検討
配付資料	【当日配布】 平成30年度第3回検討部会議事録、平成30年度第4回検討部会 資料、第3回勉強会 開催報告関連資料一式、市民啓発イベント PR チラシ、第4回勉強会 検討内容及び症例
結 論	- 部会及び勉強会の参加団体について前回の協議事項を確認するのにあわせて、勉強会の開催方法についても以下の通り確認を行った。 －参加者が増えた場合に良好な意見交換ができるようテーマに応じたやり方を検討する（参加者を記録係専属とはしない） - 市民啓発イベントの前半（ステージ）では以下の方針で説明を行うこととする。 －冒頭の講演で各職種の役割を簡単に説明した上で、パネルディスカッションで脳卒中の症例を下敷きに各職種の関わり（典型例）を説明する。 －詳細な役割についてはステージでの説明は省略し、個別にブースまで相談に来てもらう。 - 同後半（ブース）では以下の方針で会場設営を行うこととする。 －各職種が設置するパネルの枚数や各職種からの参加人数（説明役）をもとに詳細レイアウトを検討する。 －ブースの設置にあたっては仕事内容が近い職種のブースを近くに配置する。 - 第4回勉強会については、提出内容に以下の修正を加えて実施することとする。 －ミニワークの問いかけを一般的な拒否の例に改める。 （「ケアを拒否」「処置を拒否」「紹介したサービスを拒否」等があったか） －症例の説明資料について、症例の見せ方の改善、各職種の関わりや医療的な情報の追加、その他文言の修正を行う。 - 次年度の勉強会は以下の方針で開催することとする。 －第1段階 1回、第2段階 3回の開催とする。 －第2段階では3回中 1～2回は症例検討以外のパターンを試行する。 －どのようなテーマでも全職種の参加という基本的な方向性は維持する。

(このページは白紙です)

3 多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援

3-1 勉強会・研修会の開催状況

「連携推進勉強会」は、高齢福祉課及び「検討部会」が実施主体となって、医療と介護に携わる専門職同士の「顔の見える関係づくり」や多職種が同じ方向を向いてより良いサービスを提供できる体制づくりを目指して、平成26年度から定期的に行っているもので、平成30年度からは在宅療養支援課に事務局を移して開催している。また、勉強会の開催結果は必ずまとめを作成して情報の共有と疑問点の解消に努めているほか、閉会後には懇親会の開催が恒例となっており、これらも多職種の連携推進に役立っている。

- 第1段階勉強会：市内の医療と介護の関係者の「顔の見える関係づくり」の場となる勉強会
- 第2段階勉強会：具体的な症例検討等を通じた多職種協働のイメージ共有や具体的な経験を積み上げる場となる勉強会
- ※ この他にも、地域包括支援センターが主体となって市内4つの日常生活圏域毎に地域の専門職同士の交流や技術の向上を促す勉強会や、各職種が独自に研修会や勉強会、講演会等を開催している

勉強会は大きく上の2種類の内容で開催しており、平成30年度に各2回開催したことで、第1段階については通算11回、第2段階については通算6回開催したこととなる。各勉強会の終了時には参加者に対して簡単なアンケートを毎回実施しているが、今年度実施した各回についてはいずれも高評価であったことを確認している。

また、第1段階及び第2段階の勉強会を開催するにあたっては、それぞれ前年度から以下のような変更・改善を加えている。

- 第1段階の勉強会の変更点：複数回参加者と初参加者のバランスを取って、従来の作業内容（できている／できていない）から「連携の課題とその対応策」へ少しだけ寄せる
- 第2段階の勉強会の変更点：日野市立病院の認定看護師等と連携して、新しいテーマ・症例のコンテンツを開発

▼各会の開催日程等

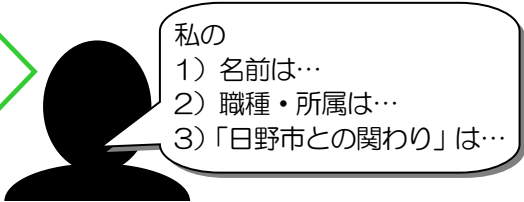
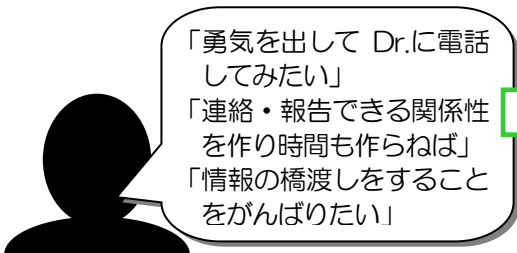
名称	日程	主催と対象
第1回【第1段階】 医療と介護の連携推進勉強会	平成30年7月27日	主催：日野市在宅療養支援課 協力：日野市立病院（認定看護師）＊1、2 ：多摩平の森の病院＊2 対象：医師会、歯科医会、薬剤師会、訪問看護ステーション協議会、病院、在宅介護事業者協議会、ケアマネ協議会、地域包括支援センターの各団体 ※に所属する事業所と行政機関（市在宅療養支援課・高齢福祉課・健康課等） ※「検討部会」に参加する8団体
第2回【第2段階】＊1 医療と介護の連携推進勉強会	平成30年9月21日	
第3回【第1段階】 医療と介護の連携推進勉強会	平成30年12月21日	
第4回【第2段階】＊2 医療と介護の連携推進勉強会	平成31年3月15日	

3 - 2 各会の内容

3 - 2 - 1 第1回医療と介護の連携推進勉強会

第1回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：多職種の連携の輪を広げるために ～顔の見える関係づくり～	
開催日時	：平成30年7月27日（金） 19:30～21:30	
開催場所	：生活・保健センター1階 予防接種室	
出席者	【出席者】 ：関連8団体（9頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計39名 ：その他聴講者6名 【事務局】 ：4名（グループワーク参加者を含む）	
プログラム	【STEP1 開会挨拶&STEP2 情報提供】  ：日野市在宅療養支援課から挨拶／課の事業内容、勉強会の目的等を説明 【STEP3 GW_作業① 自己紹介】  ：グループワークのはじめに自己紹介として上記の3項目を順番に発表 【STEP3 GW_作業② 課題の告白】  ：医療職⇔介護職に聞いてみたい質問や困りごとを付箋に記入 【STEP3 GW_作業③ 今後の目標の設定】  ：参加者1人1人に今後の目標を立てる 【STEP3 GW_作業④ 課題の共有】  ：記入した付箋を机の上に並べて質問や困りごとを1つ1つ潰していく 【STEP4 全体発表～】  ：テーブルでどんな話が出たのかを発表し課題やそれに対する助言等を共有	

3-2-2 第2回医療と介護の連携推進勉強会【第2段階】

第2回勉強会の内容は以下の通りである。

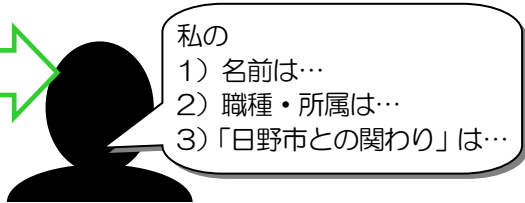
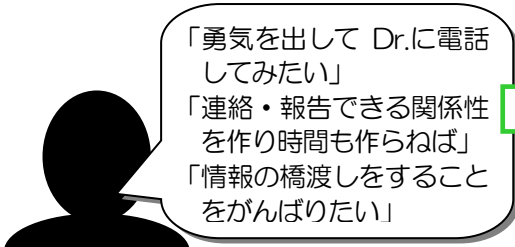
▼開催概要

テーマ	：褥瘡（床ずれ）の発見と予防～褥瘡の深刻化を見逃さない体制づくり
開催日時	：平成30年9月21日（金） 19:30～21:30
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」イベントスペース
出席者	【出席者】 ：関連8団体（9頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計38名 ：その他聴講者6名 【事務局】 ：5名（講師（市立病院認定看護師）、グループワーク参加者を含む）
プログラム	【①基本を知る】：冒頭に日野市在宅療養支援課から開会の挨拶を実施 ：その後、講師より褥瘡のしやすい部位や分類方法など、褥瘡に関する基礎知識を紹介 【②要因を知る】：褥瘡の発生要因にはどんなものがあるかクイズ形式で確認 ーカードに書かれた内容が褥瘡の要因となり得るかどうかを○×で回答【ミニワーク】 ーその後、主要な要因となる項目毎に褥瘡発生のメカニズムや注意点について講師から解説  【③予防・管理の方法を検討する】グループワーク ：上で確認した褥瘡の発生要因を頭に入れて、実際の現場で重症例を出さないためにどのような気づきや連携が必要かをテーブル毎に検討  【④まとめ】：まずテーブル毎にどんな話が出たかを発表し全体で共有した後に、褥瘡を発見する方法や褥瘡の予防に必要な取組や体制について詳しい解説を実施 

3 - 2 - 3 第3回医療と介護の連携推進勉強会

第3回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：多職種の連携の輪を広げるために ～顔の見える関係づくり～		
開催日時	：平成30年12月21日（金） 19:30～21:30		
開催場所	：生活・保健センター1階 予防接種室		
出席者	【出席者】 ：関連8団体（9頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計45名 ：その他聴講者7名 【事務局】 ：5名（グループワーク参加者を含む）		
プログラム	【STEP1 開会挨拶&STEP2 情報提供】  【STEP3 GW_作業① 自己紹介】  ：日野市在宅療養支援課から挨拶／課の事業内容、勉強会の目的等を説明 ：グループワークのはじめに自己紹介と上記の3項目を順番に発表（同左） 【STEP3 GW_作業② 課題の告白】  【STEP3 GW_作業③ 今後の目標の設定】  ：医療職と介護職に聞いてみたい質問や困りごとを付箋に記入 ：記入した付箋を机の上に並べて質問や困りごとを1つ1つ潰していく 【STEP4 全体発表～】  ：テーブルでどんな話が出たのかを発表し課題やそれに対する助言等を共有		

3-2-4 第4回医療と介護の連携推進勉強会【第2段階】

第4回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：認知症の対応力を向上する ～チームで支えるこれからの認知症ケア
開催日時	：平成31年3月15日（金） 19:30～21:30
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」イベントスペース
出席者	【出席者】 ：関連8団体（9頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計39名 ：その他聴講者6名 【事務局】 ：6名（講師（多摩平の森の病院SW、認定看護師）、グループワーク参加者を含む）
プログラム	【開会】：冒頭に日野市在宅療養支援課から開会の挨拶を実施／講師である多摩平の森の病院（地域連携型認知症疾患医療センター）SW及び認知症認定看護師より自己紹介を実施 【検討①「処置やケアを拒否された」こんな時どうする？】ミニワーク ：自己紹介を兼ねて、順番に「処置やケアを拒否された」経験と対応の手札を発表 ：その後、認知症に関する基本的な知識や拒否の発生要因、対応のヒント等を講師から解説   【検討②症状が進んで暴言・暴力が出た方の対応を考える】症例検討 ：家で暴れるAさんの症例（別紙参照）を題材に、Aさんやご家族の生活をどうサポートできるかを考える 症例検討_出題 テーブル毎に別紙の症例を確認し、以下について話し合ってください Aさんとその家族をどのように支えていけば良いか テーブル毎に話し合ってください！ ➢ ①、②のそれぞれの状態に対して各職種ではどのようなサポートができるでしょうか？ ・ 自職種ができること／やらなければいけないこと（もし関わっていたらこんなことができます） ・ 他職種にお願いしたいことを考えてください ➢ Aさんは平成30年以降も自宅で暮らし続けることができるでしょうか？ ・ お1人ずつどのように考えるかをお話してください（医療的なリスクは？／介護サポートの限界は？） ・ テーブル毎に対応方針を決めてください ・ 上で話し合った内容（②）と異なる／+αの対応をする場合はその内容をまとめてください  【まとめ】：テーブル毎にAさんとその家族にどのような対応をするか話し合った結果を発表し全体で共有した後に、実際の対応や認知症対応の留意点等について詳しい解説を実施  

(このページは白紙です)

4 - 2 イベントの開催結果

4 - 2 - 1 具体的な実施内容

イベントの内容は以下の通りである。

▼開催概要 1 / 2

タイトル	：第2回 ひの在宅医療・介護サービスフェア
開催日時	：平成31年2月24日（日） 13:00～16:00
開催場所	：イオンモール多摩平の森3階 イオンホール
来訪者	：156人（関係者を除く）
プログラム	【前半：在宅療養の基本を知ろう（～14時30分）】 ：市内で活躍する在宅医（検討部会委員）を講師に“在宅療養”に関する制度や心構え等の基本的な情報を紹介する講演を実施 ：その後、「検討部会」委員がパネリストとなって、「脳梗塞で入院～在宅復帰へ」という例を題材に、在宅における各職種のサポート内容の紹介やよくある疑問への回答、会場からの質問に対する回答をパネルディスカッション形式で実施  【後半：在宅療養について理解を深めよう！自分や家族の疑問を解消しよう！（14時30分～）】 ：在宅での療養生活を支える職種がそれぞれの仕事内容の紹介するパネルの展示や個別の相談を受け付けるブースを設置 ：その他、在宅療養に欠かせない介護用品の展示や体験、管理栄養士による介護食の紹介や栄養相談を行うコーナーも設置  全体風景 展示・相談の様子 福祉用具を体験する様子 【スタンプラリー】 ：該当する職種のブースを回ってスタンプを押してもらうことで、いざという時の医療、介護の相談先や急な大病をした際の在宅復帰の流れを知ることができるスタンプラリー ：景品として協力企業から提供を受けた栄養補助食を用意  スタンプラリーの様子

会場構成



4-2-2 市民の声

イベント来場者には、イベントの感想や今後の要望等を尋ねるアンケートを配付し、会場出口で回収することとした。

全156人の来場者のうち50人から回収したアンケート結果の概要は以下に示す通りである。

▼問1 回答者の傾向

- 回答者の年齢は、70代が最も多く、続く80代以上とあわせて6割強を占める。50～60代も3割強を占めるが、40代以下は1割で前年度よりやや少なくなっている。
- 回答者の性別は、女性が全体の7割強を占める（70代以上の女性が回答者の約半数）。
- 既に在宅医療・介護サービスを利用しているのは9人で回答者の2割弱となっており、これから利用することになる人、あるいは利用を検討している人が多くなっている。

(1) 年齢				
■回答者数 (N=50)				
選択肢	回答数	%	前年度	
～20代	1	2.0%	3.2%	
30～40代	4	8.0%	20.6%	
50～60代	14	28.0%	17.5%	
70代	19	38.0%	30.2%	
80代～	12	24.0%	22.2%	
無回答	0	0.0%	6.3%	
合計	50	100%	100%	
(2) 性別				
■回答者数 (N=50)				
選択肢	回答数	%	前年度	
男性	12	24.0%	27.0%	
女性	37	74.0%	71.4%	
無回答	1	2.0%	1.6%	
合計	50	100%	100%	
(3) 在宅医療・介護サービスの利用状況				
■回答者数 (N=9：在宅医療及び介護サービスについて「利用していない」を選んだ方を除外して集計)				
選択肢	在宅医療	介護サービス	合計※	
本人が利用している	1	3	3	
同居する家族が利用している	1	3	4	
離れて暮らす家族が利用している	1	2	2	
合計	3	8	9	
※在宅医療と介護サービスの両方を利用している回答者2名を含む				

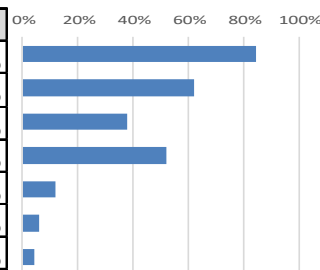
▼問2 イベントの評価 1/2 (イベントの感想等)

- イベントに参加した理由は、「在宅医療に関心があるから（利用したい・もっと詳しく知りたい）」「介護サービスに関心があるから（利用したい・もっと詳しく知りたい）」「自分や家族の将来に漠然とした不安があるから」が多くなっている。前年度と比較すると、具体的に在宅医療や介護サービスに対する関心が高い傾向が見られる。
- 無回答だった1名を除くと、全ての人イベントに参加して「とても良かった」「良かった」と応えている。
- 来て良かったと思うプログラムは、「講演」（7割強）、「パネルディスカッション」（5割強）が特に多くなっている。

(1) イベントに参加した理由（複数回答）

■回答者数 (N=50)

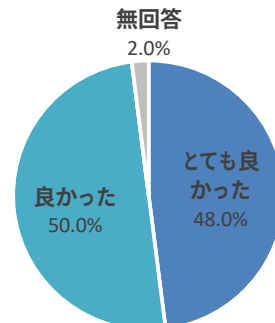
選択肢	回答数	%	前年度
在宅医療に関心があるから	42	84.0%	41.3%
介護サービスに関心があるから	31	62.0%	36.5%
福祉用具などに関心があるから	19	38.0%	17.5%
自分や家族の将来に漠然とした不安があるから	26	52.0%	42.9%
在宅医療・介護サービスに関わる仕事をしているから	6	12.0%	15.9%
その他	3	6.0%	14.3%
無回答	2	4.0%	7.9%
合計	50	100%	100%



(2) イベントに参加した感想

■回答者数 (N=50)

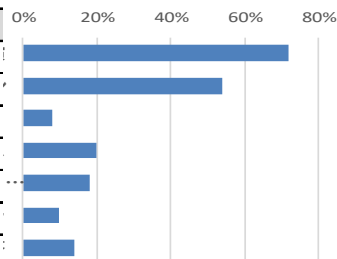
選択肢	回答数	%	前年度
とても良かった	24	48.0%	49.2%
良かった	25	50.0%	33.3%
どちらともいえない	0	0.0%	4.8%
良くなかった	0	0.0%	0.0%
とても良くなかった	0	0.0%	1.6%
無回答	1	2.0%	11.1%
合計	50	100%	100%



(3) 来て良かったと思うプログラム（複数回答）

■回答者数 (N=50)

選択肢	回答数	%	前年度
講演	36	72.0%	-
パネルディスカッション	27	54.0%	-
各職種のパネル展示	4	8.0%	-
専門家に話ができる相談ブース	10	20.0%	-
福祉用具（ベッド等）の展示・体験	9	18.0%	-
スタンブラリー	5	10.0%	-
無回答	7	14.0%	-
合計	50	100%	-



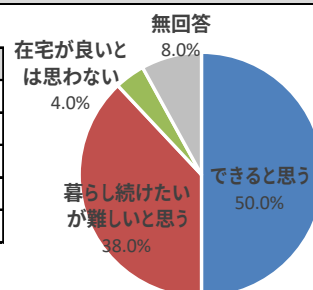
▼問2 イベントの評価 2/2 (今後のヒント)

- 今年度のイベントの1つの目標であった「最期まで在宅で暮らし続けることができると思ったか」を確認する質問に、半数の人が「できると思う」と回答している。
- もっと詳しく知りたいこととしてあげられているのは、「認知症」「元気なうちから準備できること」「家族等の支援が（どの程度）必要か」がトップ3となっている。前年度に関心の高かった「費用負担」の割合が約20ポイント低下しているのは、講演やパネルディスカッションの中で一定の情報提供ができたためと思われる。
- その他、新たに追加した「認知症」への関心がとても高いことが明らかになったが、それ以外の項目については概ね前年度と同様の傾向となっている（上記の「費用負担」を除く）。
- イベントを何で知ったかという質問には、「市の広報」（5割）、「チラシ・ポスター」（4割弱）が特に多くなっている。

(4) イベントを通して最期まで在宅で暮らし続けることができると思ったか

■回答者数 (N=50)

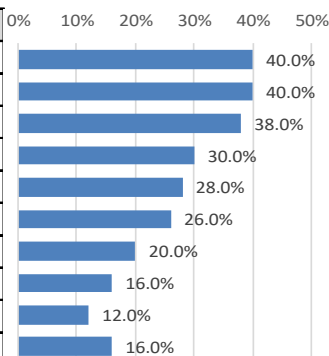
選択肢	回答数	%	前年度
できると思う	25	50.0%	33.3%
暮らし続けたいが難しいと思う	19	38.0%	46.0%
在宅が良いとは思わない	2	4.0%	1.6%
無回答	4	8.0%	19.0%
合計	50	100%	100%



(5) 在宅医療・介護サービスについてもっと詳しく知りたいこと（複数回答）

■回答者数 (N=50)

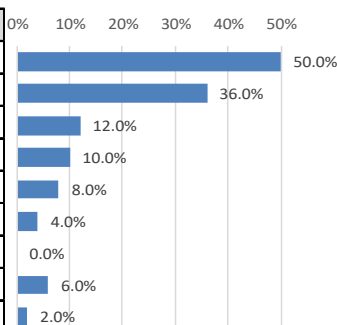
選択肢	回答数	%	前年度
認知症になっても支えてもらえるのか	20	40.0%	-
元気なうちから準備できることは何か	20	40.0%	47.6%
家族等の支援が（どの程度）必要か	19	38.0%	36.5%
在宅のメリット・デメリットは何か	15	30.0%	30.2%
費用負担がどのくらい発生するのか	14	28.0%	47.6%
どんな事業所を選べば良いのか	13	26.0%	-
持病に在宅医療が対応出来るのか	10	20.0%	12.7%
相談や願いをどこにすれば良いか	8	16.0%	23.8%
その他	6	12.0%	3.2%
無回答	8	16.0%	19.0%
合計	50	100%	100%



(6) 本日のイベントを何で知ったか

■回答者数 (N=50)

選択肢	回答数	%	前年度
市の広報	25	50.0%	31.7%
チラシ・ポスター	18	36.0%	15.9%
家族や知人の紹介	6	12.0%	7.9%
医療・介護関係者の紹介	5	10.0%	14.3%
市のホームページ	4	8.0%	14.3%
イオン内の掲示	2	4.0%	14.3%
偶然通りかかった	0	0.0%	3.2%
その他	3	6.0%	0.0%
無回答	1	2.0%	4.8%
合計	50	100%	100%



5 国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供

5 - 1 情報提供の実施状況

平成30年度は、地域住民への普及啓発の実施内容を改善するにあたり市民に対してどのような情報提供を行うべきかを検討する材料を収集し情報提供を行った。

具体的には、以下に示すような市町村が作成・発行する在宅療養ハンドブック・ガイドブック等を収集し、特に参考となるものについて検討部会に対して情報提供を行っている。

次項以降に各資料の概要を示す。

▼収集した資料

調査項目	事例名称
在宅療養ハンドブック・ガイドブック	①葛飾区 「在宅療養ガイドブック」 ②高砂市・高砂市医師会 高砂市在宅療養ガイドブック 「私たちのまち高砂で暮らし続けるために」 ③養老町地域ケア多職種連携委員会 「在宅医療ガイドブック」 ④豊田市 豊田市在宅療養ガイドブック 「我が家で安心「在宅療養」」 ⑤江東区 江東区在宅療養ガイドブック 「住み慣れた地域で安心してすごすために」
その他	○書籍 「上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？」

5 - 2 情報提供の具体的な内容

5 - 2 - 1 在宅療養ハンドブック・ガイドブックの内容

前年度に収集した資料とあわせて各ハンドブック・ガイドブックに記載された内容を分析すると、概ね「全体像の紹介」「在宅療養が必要な状況の紹介」「在宅療養に関わる職種の紹介」「在宅療養に関するよくある質問や相談先の紹介」といった内容が共通していることが明らかとなった。

前年度の市民啓発イベントでは各職種に関する細かい説明が中心となり全体像をうまく提示できなかったこと、また具体の質問から説明を始める場合でも全体像が掴みづらいことを考慮して、各項目が分かりやすく並べられた事例（下表で総合型と整理した事例）の中で特に分かりやすい豊田市、江東区の事例を検討部会に情報提供を行った。

▼収集した資料の分類

在宅療養ハンドブック・ガイドブックの例

A) 職種紹介中心タイプ

①葛飾区 「在宅療養ガイドブック」

○東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも チームで支えるあなたの暮らし」

○東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも フレイル予防で健康長寿」

○国立市 「くにたち在宅療養ハンドブック」

B) Q&A中心タイプ

①高砂市・高砂市医師会 高砂市在宅療養ガイドブック「私たちのまち高砂で暮らし続けるために」

②養老町地域ケア多職種連携委員会 「在宅医療ガイドブック」

C) 状況中心タイプ

○横須賀市 在宅療養ガイドブック 「最期までおうちで暮らそう」

○横須賀市 在宅療養ガイドブック vol.2 「ときどき入院・入所ほぼ在宅」

D) 総合タイプ（状況～職種紹介を中心に補足的に Q&A を記載するもの）

④豊田市 豊田市在宅療養ガイドブック「我が家で安心「在宅療養」」

⑤江東区 江東区在宅療養ガイドブック「住み慣れた地域で安心してすごすために」

○練馬区 在宅療養ガイドブック 「わが家で生きる」

○墨田区 在宅療養ハンドブック 「ずっとわが家で暮らせる安心のネットワーク」

○町田市 在宅療養ガイドブック 「住み慣れたわが家で自分らしく生きたい」

※番号を記載していないものは前年度に収集した資料

▼豊田市の事例に関する情報提供：イベント全体の構成に関連して

豊田市 豊田市在宅療養ガイドブック「我が家で安心「在宅療養」：もくじを抜粋

<構成イメージ>

ステージの実施内容：
「こんな場合でも在宅でいける」を伝える

次に来る費用等の不安は
補足的に(コラムで)説明

ブースの実施内容：
誰にどんなことを相談すれば良いか等を紹介する

もくじ

在宅療養について紹介します	
● こんなお悩み抱えていませんか？	3P
● 在宅療養を支えるプロフェッショナルチーム	5P
● 在宅療養の実態	
～脳血管疾患の方の在宅療養生活～	7P
～認知症の方の在宅療養生活～	9P
～がん末期の方の在宅療養生活～	11P
～医療的ケアが必要な方がいっしょに暮らす在宅療養生活～	13P
● 在宅療養にかかる費用	15P
● 看取りについて考えよう	17P
在宅療養を支えるメンバーを紹介します	
● 医師（訪問診療）	21P
● 看護師（訪問看護）	22P
● 薬剤師（訪問薬剤）	23P
● 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	24P
（訪問リハビリテーション）	
● 介護支援専門員（ケアマネジャー）	25P
● 「誰がいてる」相談支援専門員	27P
在宅療養の相談先を紹介します	
● 地域包括支援センター	29P
● 在宅医療サポートセンター	31P
● 豊田市民生後援センター	32P
● 障がい者相談支援事業所	32P
福祉に関する困りごとについて相談先がわからないときは	
● 福祉総合相談課	33P
● 健康と福祉の相談窓口	33P

冒頭で3つの状況と対応する疑問点＝見取図を提示

健康な方：
今は元気だが将来どうなるのかイメージがわからない

既に在宅で療養生活を送っている方：
このまま最期まで家にいられるかどうか心配

病院から退院される方・通院中の方：
本当に家に帰れるのか、何から準備すれば良いか分からない

「こんな時はここへ」の分かりやすい誘導

▼江東区の事例に関する情報提供：当日配布資料に関連して

江東区 江東区在宅療養ガイドブック「住み慣れた地域で安心してすごすために」：職種の紹介箇所を抜粋

かかりつけ医って？

体調が悪いときにまず相談する身近な人の医師。

- 日常生活の中で、熱がある、からだに痛い、食欲がないなど、体調が悪い時に相談、対応します。感染症や高血圧、糖尿病などの慢性疾患の管理もします。
- 診療所での診療時間の合間に、在宅医療が必要な方に訪問診療や往診をする医師もいます。在宅医療を専門にしている医師もいます。
- 診療所への診療依頼の作成や看護記録や処方箋、管理栄養士やリハビリテーションの指示書の作成。専門の検査や入院が必要な場合は、これまでの診療情報の提供を行います。介護保険の申請に必要な主治医の意見書も書きます。

患者さん「ご本人」や一親に暮らし「ご家族」のために、特に医療面で必要なことを明らかにして、在宅で心地よく過ごせるよう医療と介護のいろいろな職種の方と連携、連携をとります。

訪問看護って？

自宅での医療や、療養生活の実践、健康管理について相談できる専門職です。

- 主治医の指示書に基づいて、自宅での医療指導、病状や健康状態の管理、療養生活の相談支援をしています。
- 予防活動も大事と捉え、健康支援をしています。
- 本人家族の意思やライフスタイルを尊重しながら、日々のケアアドバイスや病状や状態の支援から最終ケアまで対応しています。

患者さんや家族の生活を中心とした在宅療養を送るために、医療や介護に必要な支援や優先順位を判断し、患者さんや家族の思いも踏まえて関係する職種の方と連携、連携しながら対応をしています。

かかりつけ歯科医って？

治療や予防の相談のことから相談できる歯科医師です。

- わし歯や歯周病の予防や治療、検診のことなど、自宅に身近なところで相談、対応します。
- 歯むしり、詰め込みなどの相談を受けることも増えています。
- 診療所での診療以外にも、歯科医院に訪ねることができない方に、住まいの近所に訪問して、口腔ケアや治療などを行います。

口腔ケアや栄養摂取など食生活を送るために歯科は重要な役割があります。患者さんや家族のサポートをし、また療養に欠かせない様々な職種の方と、口腔ケア、治療、予防、食事といったことを早期に連携、相談ができるよう対応しています。

ケアマネジャーって？（介護支援専門員）

自宅での療養生活の相談にのり、具体的な計画を立てるのがケアマネジャーです。

- 今の暮らし、今までの暮らしを続けたい希望があるときの不安や困りごとがあるときに相談支援をしています。
- 「こんな暮らし方をしたい」を一緒に考えて、実行するための計画書（ケアプラン）を立ち上げます。
- 病院から自宅、自宅から病院、施設などでの生活の場所に合わせて、情報をつなぎながら、相談支援します。

暮らしを支えるために必要なことを、一緒に考えて、その人らしい生活が実現できるように支援します。医療や介護に必要なことを、介護、医療、福祉にかかわる職種と連携しながら対応しています。

日野市のシンポでは、こうした内容を当日配布資料に記載して各ブースへの訪問を誘導する

ここに関わりの深いステージ毎に「〇〇に困ったら△△職へ」等のキャッチコピーがあると◎

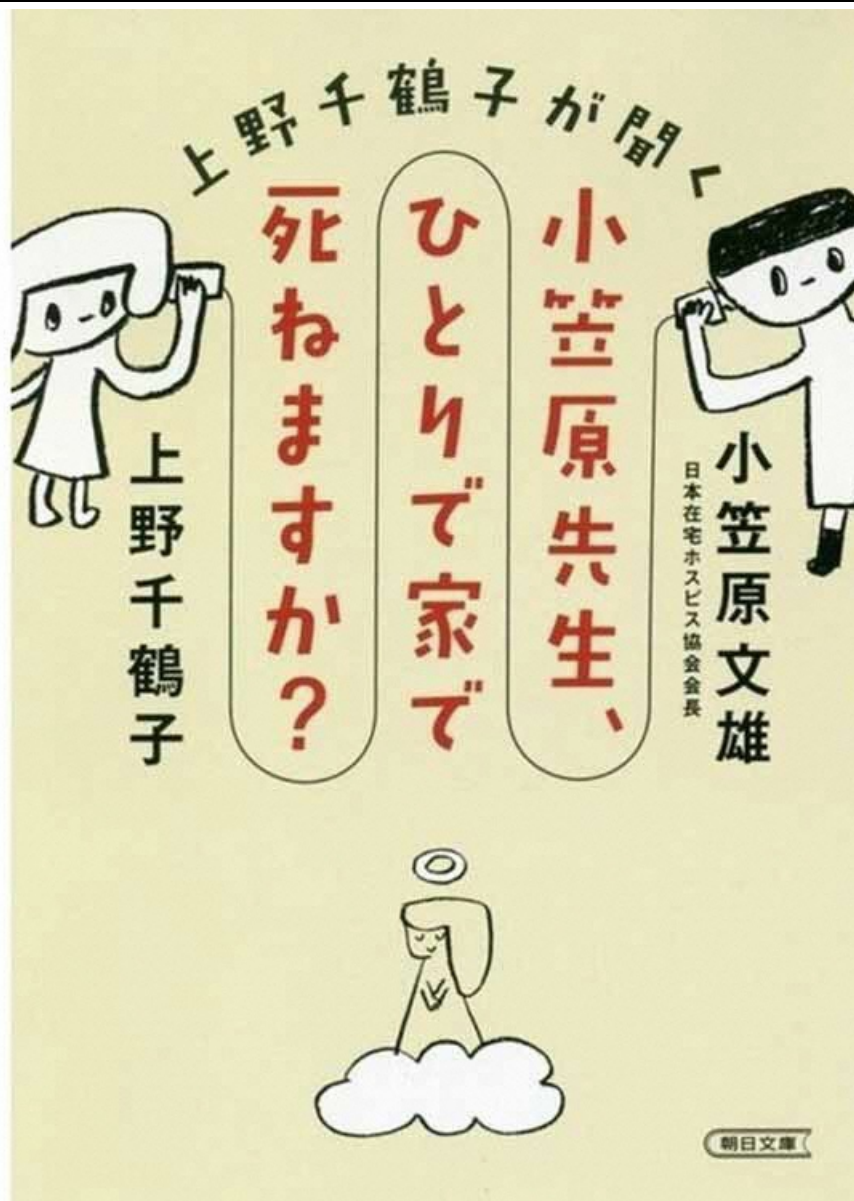
5 - 2 - 2 その他の内容

「ひとりで家で死ねます？」というタイトルのもと、一般の市民が知りたいと思われる内容について経験豊かな在宅医が丁寧に回答する内容となっている書籍である。講演及びパネルディスカッションで市民に伝えるべき内容の参考として情報提供を行った。

▼書籍概要

上野千鶴子・小笠原文雄（2013（単行本）、2018（文庫））

『上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？』朝日新聞出版



6 次年度の取組方針の検討

6 - 1 検討部会の開催

「検討部会」については、医療と介護の連携を進めるための具体的な方策を検討する作戦本部として、また職種・協議会間の情報交換の場として今後も継続的に開催することとする。

平成31年度については、勉強会や市民啓発イベントをはじめ在宅医療・介護連携推進事業に示された8つの取組が一定程度定着したことを踏まえて、日野市の医療と介護の連携の第2ステージの最初の一步と捉えて、以下のような新しいテーマを中心に検討を行うこととする。

<検討部会全体の進め方（案）>

- 年 4 回開催する（予定）
- 全 4 回の中で以下の内容を中心に検討を行うこととする
 - ー多職種連携を一層進めるための新たな勉強会・研修会のプログラムの開発
 - ー多職種連携のためのエチケット集の作成（詳細は 6-2 参照）
 - ー市民啓発リーフレットの作成（詳細は 6-3 参照）

6 - 2 多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催

「連携推進勉強会」については、参加者からの評価が高いことから今後も継続して開催することとする。

ただし、第1段階勉強会については、これまでに多くの参加者を集め「顔の見える関係」が一定程度できてきていることから回数を年2回から年1回に減らすこととし、代わりにより実践的な取組として、第2段階勉強会の拡充や「多職種連携のためのエチケット集」の作成を行うこととする。

また、勉強会の参加者の拡大についても検討を行うこととする。

<勉強会・研修会の進め方（案）>

- 年 4 回開催する（予定）
- 全 4 回の内訳は、第1段階の勉強会 1 回と第2段階の勉強会 3 回を想定する
- 第1段階勉強会は今年度を実施した内容を踏襲する
- 第2段階勉強会は、既存の症例検討の他に、例えば以下のような新しいコンテンツの開発を検討する
 - ー例えば、特定の疾患等をテーマにした講義や実演（症例検討以外のアプローチ）
 - ー例えば、特定の職種等をテーマにした講義やGW（職種に光を当てる）
 - ー例えば、連携の課題や必要な対応・仕組みを話し合う（システムの改善）
 - ーコンテンツの開発にあたっては、日野市としてなぜこの連携を強化していくのか、圏域別勉強会や部会独自の取組とどのように役割分担するのかを意識する

6 - 3 地域住民への普及啓発の実施

過去2年間、「ひの在宅医療・介護サービスフェア」と題してイベント形式で啓発を進めてきたが、平成31年度はより多くの地域住民にこの内容を届けるため、イベントの成果等をまとめた「リーフレット」を作成することとする。

「ひの在宅医療・介護サービスフェア」については、「検討部会」の中で継続開催の是非を判断することとする。

6 - 4 国、東京都・他自治体の取組等の調査

「国、東京都・他自治体の取組等の調査」については、検討部会の検討内容にあわせて、以下の内容を中心に収集・情報提供を行うこととする。

- 多職種連携のエチケット集関連：他所で作成している連携マニュアル等の事例や資料を調査する
- 第2段階勉強会関連：新しいコンテンツや新しい開催方式の参考として、他所で実施している勉強会・研修会の事例を調査する

「市民啓発リーフレット」については、過去2年間に調査を行っていることから、必要に応じて既存の資料の中から情報提供を行うこととする。